Real humanitarian Action
REACT
2008年 Vol.2（3月発行）

MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

荒海を渡りイエメンへ逃れる移民
国境なき医師団のイエメン活動報告

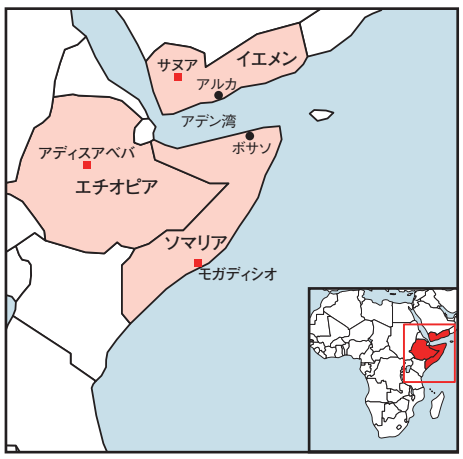
©Mamiko Hagiwara / MSF

昨年来、何万人もの人びとが命がけでアデン湾を渡り、イエメンに入国しようと試みています。その多くは、国内で起こっている紛争から逃れ、安全な場所で暮らし働くことを望むソマリアやエチオピアからの移民です。小さな漁船に身動きができないほど押し込まれた移民たちの船内の状況は過酷です。イエメン沿岸部にたどり着くまでの3～4日間、炎天下の猛暑の中、食料やわずかな水さえ摂ることを許されず、船が転覆しないように縄で体を縛り付けられることもあります。2007年初めから12月中旬までにイエメン海岸に到着した約2万8千人のうち、651人の死亡が確認されたほか、659人の行方不明が報告されていますが、実際の死亡者数は、これを大幅に上回ると見られています。

国境なき医師団（MSF）は、2007年9月にイエメンでの援助プログラムを開始して以来、同国南部のアビヤン、シャブワ両州の海岸に到着した3千人を超える難民や移民に医療・人道援助を提供してきました。現在もイエメンでの援助活動を続けるMSFのスタッフから届いた報告をお伝えします。

浜辺に打ち上げられた人々

2007年12月15日、真夜中に一隻の小船がイエメン沿岸のアルカ付近で転覆し、多数の死傷者がいるという連絡を受け、医師、看護師、心理カウンセラー、人道問題担当者、そしてチーム・コーディネーターからなるMSFチームは急遽現場へと車を走らせた。そこで見たのは、ひどく疲れきった50人ほどの集団が、検問所の建物のわずかな日陰に座り込んだり、横たわったりしている姿だった。彼らの説明によると、およそ3日前に長さ8mほどの小船がソマリアのボサソを出発したとき、船には女性約40人と乳児を含む子ども少なくとも5人を合わせ148人が乗っていたということだが、生存者の数はわずか49人で、100人近くが死亡または行方不明になっていることが分かった。さらに話を聞くと、船は深夜12時頃イエメンの海岸に近づいたが、彼らは岸からかなり離れた沖合で海に飛び込むよう強制され、それを拒否



すると今度は暴行を受け、続いて船が転覆したために、ほとんどの人は泳げずに溺れ死んだとのことだった。また少なくとも4人は航海中に死亡したという。25才のソマリア人男性はこう話した。「船が転覆し、私と妻は海岸に向かって泳ぎました。岸に着くと、妻は死にました。子どもたちを見ると、彼らも死んでいました。」

スタッフはまず最初に飲料水やビスケット、栄養治療食、ナツメヤシの実を車から降ろして、彼らに行き届くように配り、次に医師と看護師からなる医療チームが、だれが緊急治療を必要としているかを素早く確認。砂地に医療ボックスを設置して30人以上の傷の手当てを行ったほか、心理カウンセラーが不安やストレスの症状が見られる人たちのケアに取り組んだ。一方で、他のスタッフは衣類やサンダル、石けんの入ったキットを配布。また、到着した移民たちが何時間も焼け付くような炎天下に座っていたことを考え、日陰を増やすためトラックの脇にテントを張った。

移民の手当てを行う MSF スタッフ

イエメンへ渡る移民は後を絶たない

ほかに生存者がいるかどうかを確認し、さらに状況を詳しく調査するために浜辺に向かうと、数十人の遺体がおよそ5㎞にわたって累々と打ち上げられている光景を目の当たりにした。これらの多くは女性で、子どもも5人含まれており、合計56人の遺体があった。遺体を布で覆う作業を終えてから検問所に戻ると、難民受入れ機関による収容センターに生存者が移送されるところだった。トラックに乗った姿を見送りながら、彼らが乗り越えなければならなかったものに対する怒りがこみ上げてきた。彼らはただ安全な場所で暮らし働くことを望んだだけだったのに。

その晩、スタッフはオフィスに戻り、この恐ろしい1日の出来事について報告し合った。そして、一人が発した言葉は、そこにいる全員が感じていたことだった。「多くの遺体を発見したとき、私はそれを現実と信じることができませんでした。ショックを受けて何かしたいと思いました。そして、ひたすら遺体を覆う作業を続けましたが、私の心はそこには在りませんでした」。

非常に厳しい1日だったが、私たちの支えになったのは、チーム全員が一丸となって働き、生存者の救援にできる限りの手を尽くしたということだった。

＊　＊　＊

移民たちの多くはこの後、収容センターに移され、難民キャンプで暮らすことになります。もともと、イエメンの地域社会基盤は十分に機能しているとは言えず、長く危険な船旅を続け、やっと生きてイエメンの沿岸部にたどり着いたとしても、十分な援助を受けることができないのが現状です。MSFは目下、最も緊急を要する上陸地点での救命活動を中心に援助活動を行っています。

ソマリアでは1991年に勃発した内戦が過去最悪のレベルにまで激化し、無政府状態が続く中、対立勢力間の武力衝突が各地で繰り返され、無数の一般市民が犠牲となっています。一方エチオピアでは、隣国エリトリアとの国境紛争、政府軍と反政府勢力との衝突に加え、民族間の激しい抗争により治安が極度に悪化。多くの人びとが恐怖と貧困の中で生活しています。追い詰められた人びとは、母国を離れアラブの国へ逃れようとせざるを得ません。

MSFが2007年以降開始した新規活動プログラム

ケニア　ケニア全土で大統領選挙への抗議行動が続く中、暴動の影響で負傷した人びとを治療できるよう、新たに医療施設を設置。

ソマリア　多くの国で根絶しているにもかかわらず、産科医療の不足している国で見られる「産科フィスチュラ」と呼ばれる症状で苦しむ女性に対して手術を提供。

パキスタン　宗派間の抗争勃発により援助が必要となった避難民に毛布、栄養強化ミルク、緊急用食糧などを配布。今後もテント、調理器具、衛生用品キット、追加の食糧を配布予定。

インド　治療を受けられない感染者の致死率が５割にも達するカラアザール（内臓リーシュマニア症）の診療を開始。患者はいわゆる「低カースト」に属する極貧状態におかれた人びとである。

● 緊 急 報 告 ●

MSF スタッフ３名が１月 28 日の朝、ソマリアのキスマヨにおいて、MSF が活動する病院からほど近い場所で爆発に巻き込まれ死亡しました。この悲劇的な事件の正確な背景はいまだ明らかになっていませんが、私たちは犠牲となったスタッフとその家族および友人に対して、改めて心より哀悼の意を表します。

ニュースレター「REACT」2008 年２月発行号の記載に関する訂正とお詫び

「REACT」2008 年２月発行号と共にお送りしました手紙の中で、昨年１年間にいただいたご寄付に相当する支援例として、栄養治療食 (RUF) のキロ数を表示しましたが、計算式に誤りがございました。RUF の現在の価格、１キロあたり約 480 円（=3 ユーロ。1 ユーロ 160 円として換算）で割って得られた数が正しいキロ数です。

例：15,000 円　（誤）272.7 キロ　（正）31.3 キロ

また、支援申込書の中の、クレジットカードによる随時の寄付お申込み記入欄 (B) に、「その他（毎月　　円）」と記載されていますが、正しくは、「その他（　　円）」です。
大変ご迷惑をお掛け致しました。訂正とお詫びを申し上げます。
ご不明な点がございましたら、フリーダイヤル0120-999-199 までお問い合わせください。(8:00 ～ 22:00 無休)

MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団
特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-13
www.msf.or.jp
【寄付管理データセンター】 Tel:03-3764-7680（平日9:00 ～ 17:00）
【寄付の申し込み・資料請求先】0120-999-199（8:00 ～ 22:00無休）